この宇宙に地球と似た星はあるのだろうか

有本信雄（国立天文台）著
サンマーク出版　263ページ　2200円＋税

読み物
お薦め度
☆☆☆☆☆

「星の好きな少年少女と，子どもの心を失わない大人に贈ります．宇宙の不思議はこんなにもおもしろい」

この本の帯にある文章です．地球生命の起源や地球温暖化を話題のきっかけに，将来の宇宙への移住を含めて，地球生命として何を考え，何を意識すべきかを対話形式でやさしくわかりやすく表現しています．

中学生の「すばる君」とイギリスから一時帰国している天文学者の「おじさん」が，夏休みに出会い，「おじさん」の書物の整理を手伝いながら，さまざまな会話をし，ドラマ仕立ての一筋の流れとなって，読者を導いていきます．ハードカバー263ページという厚い本ですが，その割には早く読めるのは，表現や構成の巧みさだと思います．またカラーページが冒頭に32ページあり，43枚ものカラー図版がまとめられ，該当文から参照することができます．本来は文中にあると良いのですが，そうすると白黒になってしまうので，これが次善の策と思われます．

筆者はあとがきの中で「私は天文学者です．ですから，この本で描いた星や，銀河や，宇宙の姿は，今天文学で正しいと考えられている知識をもとにしています」と述べています．これはそのとおり実現されており，特に恒星進化や，銀河系内の重元素比率によるハビタブルゾーンなど，詳細，正確かつわかりやすく大変好感が持てます．「やさしさ」と「不正確さ」が同居した本が多い中，たとえ誰が書こうとも，これは守られるべき大切なことだと思います．その上で，質量を重さと表現するなど，日常生活に即した用語に意識して置き換えているのも良い配慮だと思います．

このように気配りがされている本文に対して，残念ながら写真のキャプションは雰囲気が違います．まるで公開元の説明文をそのまま翻訳したような文章で，本文とも不釣り合いですし，内容が不親切なところもあります．たとえば天の川の写真はいて座方向をアップにしたものです．ここで適切なのは，夜空に天の川が横たわるといった広角の構図だと思います．さらに「いて座方向に銀河系の中心がある」というキャプションだけでは，それが図のどこのことなのか読者にはわかりません．本文の世界が良いだけに，そこに記されている番号をたどってカラーページを見た瞬間，現実に引き戻されてしまう観があり残念です．

筆者は中学生向けに書き下ろしたとしていますが，前出の帯の文章にもあるように，大人も十分に楽しめる内容です．それどころか大人がメインターゲットのような気もします．この本の厚さは，現代の子どもたちには少々ハードルが高いかもしれません．さらにこの本に出てくる少年「すばる君」はあまりにも優秀で，さらに質問する観点も，正直なところ心得すぎていますから，同世代の子どもには「こんなことあるわけない」と，本の示している内容以前に意識が離れてしまうかもしれません．そういうことを全て笑ってやり過ごして，対話形式の持つ良さを享受できる大人の本のような気がするのです．

一般の方におすすめできる本です．また我々自身も「この現象をどう言い表わそうかな？」と，まよった時，きっと参考にする本の一つです．

毛利勝廣（名古屋市科学館・学芸員）